

公立大学法人札幌市立大学
第2期中期目標期間（平成24～29年度）の
業務実績に関する中間評価結果

平成29年1月

札幌市地方独立行政法人評価委員会

1 公立大学法人札幌市立大学 第2期中期目標期間の中間評価の方法

- (1) 中間評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。
- (2) 項目別評価は、中期計画の次に掲げる事項（大項目）の進捗状況の評価を行う。
 - ① 大学の教育研究等の質の向上
 - ② 地域貢献、国際化、大学間連携
 - ③ 業務運営の改善及び効率化
 - ④ 財務内容の改善
 - ⑤ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供
 - ⑥ その他業務運営

上記事項（大項目）ごとに、事業の進捗状況について次に掲げるS～Dの5段階で評価を行うとともに、特筆すべき点や遅れている点があれば、コメントを付す。また、次期中期目標及び次期中期計画の策定に向けた意見を付す。

- S：特筆すべき進捗状況にある
- A：計画どおり進捗している
- B：おおむね計画どおり進捗している
- C：やや遅れている
- D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）

- (3) 全体評価は、項目別評価を総括し、中期計画全体の進捗状況の評価及び次期中期目標、次期中期計画の策定の視点等について記述式により評価を行う。

2 全体評価

(1) 総評

平成18年4月に開学した公立大学法人札幌市立大学は、平成21年度に学部が完成し、平成22年4月には、デザイン研究科と看護学研究科の大学院博士前期課程、平成24年4月には大学院博士後期課程を設置し、間断なく大学を発展させている。開学時より、デザインと看護に共通する「人間重視」の考え方を常に基本として高度な教育研究を行っており、デザイン分野と看護分野における有為な人材の育成・輩出と地域に根ざした公立大学として、一層の地域貢献が期待されている。

平成24～26事業年度の業績評価としては、「項目別評価」の結果では、概ねA評価（計画どおり進捗している）となっており、全体としては、行うべき事業を行い、順調に業務を遂行していると評価できる。

なお、項目別評価の基礎資料となる公立大学法人札幌市立大学が策定した各事業年度の年度計画の記載項目（小項目）ごとの評価（小項目評価）においても、毎年、年度計画実施の水準を満たしている。

また、毎年度の詳細な年度計画の策定や自己評価の実施に加え、これに対する評価委員会の評価等を踏まえつつ、大学業務全般にわたって様々な取り組みを推進していることが伺える。

(2) 大項目ごとの評価の主要なポイント

ア 大学の教育研究等の質の向上

オープンキャンパスや公開講座、FD研修の実施内容の充実を図ることに加え、卒業・修了時の学生及び既卒者に対するアンケート調査や授業評価アンケート、学部連携演習における「個人活動評価票」なども含めて、重層的な教育評価システムが整備されてきたことは高く評価できる。

また、デザインと看護学部の分野横断型連携の取組として、科学研究費・基盤研究（A）の地域創成デザイン研究や地域再生のためのアートマネジメント人材育成事業等のプロジェクトを推進するほか、大学と外部機関が連携した分野横断的な教育研究に積極的に取り組んでいる姿勢は高く評価できる。

イ 地域貢献、国際化、大学間連携

COC事業、産業界とのネットワークづくり、海外提携校との交流、公開講座など幅広い分野で精力的に取り組みを推進しており、高く評価できる。

大学の国際化については、教員・学生の海外派遣と受入を実施しており、着実な取組の成果として、高く評価できる。

ウ 業務運営の改善及び効率化

第二期経営戦略に基づき、理事長の補佐体制の強化を図るために経営会議を設置するとともに、教育研究企画会議及び学外連携企画会議を新設し、学内の諸問題に対応していることは評価できる。

事務の効率化・合理化に向けて、超過勤務時間の縮減に取り組んでいるほか、広報活動については、大学が策定した広報戦略・行動計画に基づき設置した広報室の効果的な運営がなされている。

エ 財務内容の改善

科学研究費補助金獲得に向け、効果的な申請支援策が採られている。

寄付金を活用した基金については、プロジェクトチームの立ち上げや根拠規定の整備を行うなど、積極的な取組を行っていることは、高く評価できる。

オ 自己点検・評価

マネジメントサイクルによる自己点検・評価について、半期（一部四半期）ごとに、年度計画の進捗管理を行うなど、適切に取り組まれている。

カ その他業務運営

図書館機能の充実に向け、利用者に対するニーズ調査を実施したほか、司書の増員を図るなど、適切に取り組まれている。

また、キャンパスハラスメントの防止に向けた取組が行われるとともに、節電対策として、照明の部分消灯やエレベーターの運転制限など具体的な取組に着手している。

(3) 次期中期目標、次期中期計画の策定に向けて

- ・次期中期計画においては、客観的な評価が可能となるよう、大学の取組について、可能な限り成果指標を設定する必要がある。
- ・アクティブラーニングを導入し、学生の主体的な学びを促す取組を推進していくことを期待する。
- ・学生が、地元企業の現場を体験できるような機会を設けていくことを期待する。
- ・大学の知的資源を地域産業に還元するような取組を強化することを期待する。
- ・引き続き外部競争資金の獲得を推進するとともに、研究費の適切な執行等、コンプライアンスを徹底する必要がある。
- ・医療機関などと連携して、看護人材のほか、在宅医療・訪問看護人材の育成にも貢献することを期待する。
- ・市立札幌病院等の札幌市行政との連携を強化して、地域医療・福祉に貢献することを期待する。
- ・「地域に学ぶ」という基本姿勢を中期目標や中期計画に掲げ、明確に打ち出していくことを期待する。
- ・大学の教育、研究、地域貢献の取組を推進するため、情報発信を強化するとともに、同窓会との連携強化についても検討の余地がある。

3 項目別評価

3-1 大学の教育研究等の質の向上に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

小項目において、概ね「年度計画を上回って実施している (Ⅳ評価)」又は「年度計画を十分に実施している (Ⅲ評価)」と評価されている。

(参考) 小項目評価の集計結果

事業年度	小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
		Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
24年度	28	0	2	22	4	93%
25年度	27	0	0	26	1	100%
26年度	24	0	0	21	3	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回る項目として、次のものが挙げられる。

- ・オープンキャンパスについて、積極的な取組を行い、効果を上げている。
- ・両学部・研究科等において卒業・修了時の学生及び既卒者に対するアンケート調査や授業評価アンケート、学部連携演習における「個人活動評価票」なども含めて、重層的な教育評価システムが整備されてきた。
- ・FD研修会について、年度計画を上回り、活発に行なわれており、地域志向性や学部連携など、目下の大学全体の課題に即して有意義と思われる。
- ・デザインと看護学部の分野横断型連携の取組として、科学研究費・基盤研究(A)の地域創成デザイン研究や地域再生のためのアートマネジメント人材育成事業等のプロジェクトを推進するほか、大学と外部機関が連携した分野横断的な教育研究に積極的に取り組んでいる。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 次期中期目標、次期中期計画の策定に向けて

- ・アクティブラーニングを導入し、学生の主体的な学びを促す取組を推進していくことを期待する。
- ・学生が、地元企業の現場を体験できるような機会を設けていくことを期待する。

3-2 地域貢献、国際化、大学間連携に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

小項目において、概ね「年度計画を上回って実施している (IV評価)」又は「年度計画を十分に実施している (III評価)」と評価されている。

(参考) 小項目評価の集計結果

事業年度	小項目数	評価結果				IV又はIII の割合
		I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
24年度	10	0	1	8	1	90%
25年度	9	0	0	8	1	100%
26年度	9	0	0	7	2	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・COC事業が順調に実施されたことにより、地域の核となる大学づくり、デザインと看護の連携が進んでいる。
- ・公開講座を活発に行うとともに、受講後のアンケート調査でも高い満足度を有している。
- ・大学の国際化については、教員・学生の海外派遣と受入を実施しており、着実な取組の成果として、高く評価できる。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 次期中期目標、次期中期計画の策定に向けて

- ・大学の知的資源を地域産業に還元するような取組を強化することを期待する。
- ・医療機関などと連携して、看護人材のほか、在宅医療・訪問看護人材の育成にも貢献することを期待する。
- ・市立札幌病院等の札幌市行政との連携を強化して、地域医療・福祉に貢献することを期待する。

3-3 業務運営の改善及び効率化に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

小項目において、全て「年度計画を上回って実施している (IV評価)」又は「年度計画を十分に実施している (III評価)」と評価されている。

(参考) 小項目評価の集計結果

事業年度	小項目数	評価結果				IV又はIII の割合
		I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
24年度	8	0	0	8	0	100%
25年度	8	0	0	7	1	100%
26年度	8	0	0	8	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・超過勤務時間の削減を通じて業務運営の改善及び効率化が図られている。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 次期中期目標、次期中期計画の策定に向けて

- ・大学の教育、研究、地域貢献の取組を推進するため、情報発信を強化するとともに、同窓会との連携強化についても検討の余地がある。

3-4 財務内容の改善に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

小項目において、全て「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されている。

(参考) 小項目評価の集計結果

事業年度	小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
		Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
24年度	4	0	0	3	1	100%
25年度	4	0	0	4	0	100%
26年度	4	0	0	4	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目はない。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 次期中期目標、次期中期計画の策定に向けて

- ・引き続き外部競争資金の獲得を推進するとともに、研究費の適切な執行等、コンプライアンスを徹底する必要がある。

3-5 自己点検・評価に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

小項目において、全て「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されている。

(参考) 小項目評価の集計結果

事業年度	小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
		Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
24年度	3	0	0	3	0	100%
25年度	3	0	0	3	0	100%
26年度	3	0	0	3	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目はない。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 次期中期目標、次期中期計画の策定に向けて

- ・次期中期計画においては、客観的な評価が可能となるよう、大学の取組について、成果指標を設定する必要がある。

3-6 その他業務運営に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

小項目において、全て「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されている。

(参考) 小項目評価の集計結果

事業年度	小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
		Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
24年度	10	0	0	10	0	100%
25年度	9	0	0	9	0	100%
26年度	9	0	0	9	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目はない。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 次期中期目標、次期中期計画の策定に向けて

- ・「地域に学ぶ」ということを中期目標や中期計画の基本姿勢として掲げ、明確に打ち出していくことを期待する。